

アートギャラリー

市章デザインプロセス
「江田島市の市章デザインを事例として」

安 起瑩

1、背景と経緯

この市章デザイン (City Identity Design) は、2005 年江田島町・能美町・沖美町・大柿町の 4 町が合併によって新たな『江田島市』として生まれかわる際、新しい市の象徴として使用する市章を全国公募し、その応募作品の中から本人のデザイン案が最優秀賞を受賞・採用されたものである (図 1)。公募の条件としては、市の環境・地理的な特徴を理解し人々に親しみやすいデザインであること、既存の町章と類似しないこと、カラーは 3 色以内であること、白黒としても使用できること、グラデーションや実写などの特殊表現は用いないことであった。

この公募と選考にあたり、全国から 1,150 点の応募があり、20 名の市章候補選考委員会は第一次審査で、市章デザイン候補 5 点を選考した。その後、第二次審査として市民のアンケート調査を実施し、その中から最終デザイン案を決定した。そして、それを地域情報誌や全国新聞などのメディアを通して公表するとともに、翌年にわたり市の施設や設備、そして物品などに市章デザインを用いる作業を行った (図 2)。

本稿はコンペ形式の公共デザイン制作の場合、どのようなコンセプトとプロセスでデザインが採択・使用されるかを応募者やデザイナーの立場から述べる報告である。



図 1. 市章デザインとコンセプト

2、デザインのコンセプトとプロセス

これは普通行われるデザインの仕事のようにクライアントからの依頼によって成り立つものではない。応募し採択された場合、行う事のできるコンペ形式の仕事である。つまり、主催側にデザインのキーワードとなる情報の問い合わせや打ち合わせなどは困難である。したがって、応募作品制作にあたって何より自分の好みを排除するところからデザインを進めた。

そこで本人は、日本人の市章に対する理想形やデザインの好みを把握するため、東京都、大阪府、京都府、北海道、宮城県、長野県、石川県、愛知県、広島県、香川県、福岡県、沖縄県といった12の都府県の243市の中、入手可能であった205個の市章のデザインモチーフを調査した。これは全国の全ての市を対象としてはいないため大まかな調査ではあるものの、日本の市章デザインの現状を把握することはさることながら出品作のデザインの方向性を決めるキーワードとなるコンセプトを掴むため実施したものである。



図2. 応募された作品に目を通す市の関係者(上) / 地域情報誌と新聞(朝日新聞、読売新聞)などに公表された内容。

そしてこれらの分類方法としてはそれぞれの市章デザインの要旨のキーワードを基準とした。例えば、「〇〇市の頭文字をモチーフとし、それを市鳥である鷺の姿として表し…」という場合、これは一見形としては“鳥の具象

都道府県	調査市数	モチーフ				形態			
		文字	+具象 +抽象	具象	抽象	○	△	□	その他
東京都	25	19	$\frac{1}{18}$	1	5	16	0	1	8
大阪府	31	14	$\frac{4}{10}$	2	15	12	4	3	12
京都府	14	6	$\frac{0}{6}$	0	8	10	0	0	4
北海道	21	7	$\frac{0}{7}$	4	10	10	0	2	9
宮城県	12	10	$\frac{0}{10}$	0	2	9	1	0	2
長野県	18	15	$\frac{3}{12}$	2	1	10	0	0	8
石川県	7	3	$\frac{0}{3}$	1	3	3	1	0	3
愛知県	23	8	$\frac{1}{7}$	3	12	13	2	0	8
広島県	12	7	$\frac{0}{7}$	2	3	4	1	2	5
香川県	8	7	$\frac{2}{5}$	0	1	1	1	1	5
福岡県	23	11	$\frac{1}{10}$	2	10	10	2	0	11
沖縄県	11	9	$\frac{0}{9}$	0	2	7	2	0	2
総計	205	116	$\frac{12}{104}$	17	72	105	14	9	77
%		56.6	$\frac{10.3}{89.7}$	8.3	35.1	51.2	6.8	4.4	37.6

モチーフ

- 文字: 56.6%
- 具象: 35.1%
- 抽象: 8.3%
- 文字+具象: 10.3%

形態

- (丸): 51.2%
- △(三角): 6.8%
- (四角): 4.4%
- その他: 37.6%

図3. 市章デザインのモチーフと形態の調査内容とグラフ

形”をモチーフとしているように見えるが、市章の要旨に基準をおき“文字”として分類し、さらにその中でも“文字＋具象形”として小分けした。このような調査の結果、デザインモチーフとして最も多かったのは『文字（漢字、かな、アルファベット）のモチーフ』で全体の56.6%であった。次は市の理想や理念などをなんらかの形として表した『抽象的なモチーフ』が35.1%、そして最も少なかったのが市花、市鳥、市木のような自然物の形をベースにした『具象的なモチーフ』であり8.3%に過ぎなかった。そして次は形態であるが、そもそもロゴマークの形態を形づくるモチーフとして分類すると文字（記号、数字も含む）、具象形、抽象形、そしてこれらの混合形に分けられると考えられる。（図3）

しかし、今回の調査の目的は、公募に出品するデザイン案の制作の参考資料として活用するためであり、募集条件にもそぐわなければならないため全体的な形を『○（丸・楕円）、△（三角・逆三角）、□（四角・菱形）、その他（☆、♡、◇）』といった図形に当てはめて分類することにした。例えば、石川県の白山市（図3-石川県参照）は様々な形の組み合わせによるデザインであるが、これは全体的な形としてとらえ「○（楕円）」として分類した。そして、大まかであるもののこのような形態の分類調査も日本人の市章に対する形の好みを把握し、そして出品作のデザインの形を決める基準として取り入れるために活用できるのではないかと考えられた。そして調査の結果、「○」が51.2%、「その他」が37.6%、「△」が6.8%、そして「□」が4.4%の順であった。（図3参照）

以上の二つの調査の結果を総合してみると、日本の市章デザインは、市名と関わる文字（主に頭文字）をモチーフとし、これを抽象的なイメージのモチーフと組み合わせ、全体的に丸の形を中心とした柔らかな表現のものが非常に多かったという事が明らかになった。そして本人はこのような市章デザインを日本人は好む傾向にあるということを確認し、今回の出品作はこれらのパソコンに合わせたデザイン想定をすることにしたのである。そして、こ

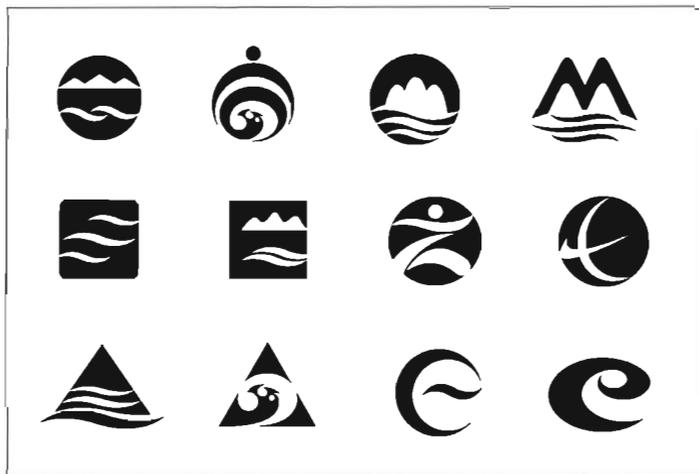


図4. 試案用デザイン（12作）

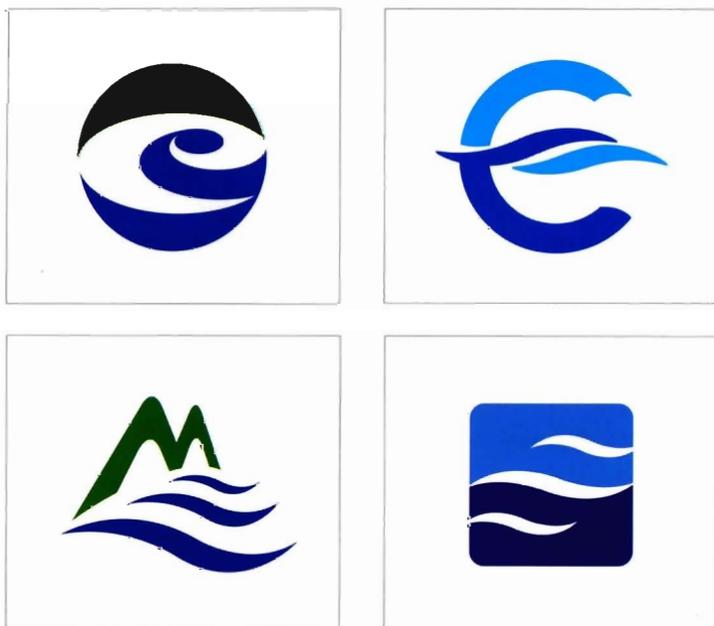


図5. 出品したデザイン（4作）

れらをキーワードとする様々なラフスケッチを行った。そしてその中で、スケッチ案12個を選択しコンピューターによる制作を行った(図4)。さらにこれらを絞り込み完成度を高めるため、次のようにコンセプトをより具体化し、それに沿ったデザインのアレンジを試みた。

①江田島市(Etajima City)の英文頭文字「E」の形を生かすこと。②広島県の瀬戸内海岸に位置しているという地理的な特徴をアピールするため「海(波)」のイメージを生かすこと。③全体的形は丸い形を優先しながら、三角形、四角形の順にデザインすること。

そしてカラーについては、市が海に接する都市という自然に恵まれた地理的環境をアピールするため、メインカラーはブルー系、サブカラーはグリーン系にした。そしてこのようなプロセスを経て完成させた4作を出品した(図5)。

3、デザインのアプリケーション

当選作として決定されたあと、『江田島市 市章 デザインガイド』(図6)制作にあたって、市側は本人の市章デザインを用いたアプリケーションを提案した。しかし、市章 デザインはそのまま使用するものの、アプリケーションデザインについては市と関連しているデザイン会社に依頼することとなった。なぜならば、原則として採用されたデザイン案については賞と賞金を授与することで、全ての使用権利は市側にあることを許諾した上での応募であったためである。しかし、市側は本人のアプリケーションの提案を参考にしながら市章 デザインガイド制作を進めることにした。また、制作過程であまりにも本人のデザイン意図と懸け離れる方向に制作が流れる場合は、話し合いを行うことで同意した。その結果、市側からは応募した元のデザイン案の形には手を加えないものの、カラーをオリジナル(C100%、M20%/C70%)より多少濃くしたいという提案があり、基本カラーはプルシャンブル(DIC 222/C100%、M85%)とスカイブルー(DIC 140/C84%、

M21%) に決められた。そして、それを用いて制作した市章 デザインガイドの内容 (一部) が図6である。

4、まとめ

今回の市章デザインは、専門家や関係者の意見はさることながら地域の一般市民の生の声によって決められたことでより意味があるだろう。つまり、青少年から老人まで全市民の選考により選ばれたデザインという意味において、これこそロゴデザイン (logo design) におけるユニバーサルデザインとして位置づけたい。

終わりに、本人のデザインが市章として採用され、これが市の様々なところに用いられ長期にわたり活用されるであろうことを大変光栄に思う。また、本人の意図を尊重し、デザイン案に手を加えず、そのまま市章として使用して下さった江田島市の関係者の方々にも重ねて感謝の気持ちをお伝えしたい。